

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	滋賀大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シガダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	プロジェクト科目「プロジェクト型インターンシップ2016年秋・外国人観光客を取り込もう」
	学部・研究科等名	経済学部
	担当教職員名・役職	特任准教授 柴田雅美
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	12
	受入企業等数	7
	受入企業等名	寿司割烹 銀水、いと重菓舗、木村菓子舗、すし浜、レンタサイクルめぐりんこ、まさ味、八千代
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	彦根を訪れるインバウンド観光客をいかに個店に取り込むかをテーマに、受入企業が抱える課題や希望をもとに大学生が企画を考え実施した。具体的には、店外での呼び込みポスターや掲示物、メニューの外国語表示の制作を行った。地方都市におけるインバウンドの現状理解や、観光客をどのように地域活性につなげるのかを実感できることを目指した。制作を通じて社会人基礎力育成や企画構成力・交渉力、複眼的思考の体得もねらいとした。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	経済学部のその他専門科目「プロジェクト科目」として実施した。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している。2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インバウンド観光客を取り込む先進事例として、飛騨高山市を訪問し効果的な取り組みを学んだ。それを踏まえて店舗との交渉・折衝の方法、企画内容の調査検討、ゴールの設定を明確に行った。事前に確認できていた店舗の希望や課題をもとに、PDCAを何度も行えるよう行動計画を策定し、その計画に沿った実行を重視した。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習として、受入企業を招聘した報告会を開催しました。フィードバックシートを使いながら、企業や学生間の相互評価を行った。さらに社会人基礎力自己点検シートを用いて、学生自身の評価と、一緒に活動したグループメンバーについての他者評価を行い、今後につなげる整理をした。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターン期間中、毎週一回以上の頻度で、「活動の現状報告と次の1週間の計画」シートをもとに指導をした。また店舗のニーズにあわせて訪問し、店舗と学生の取り組み方向のコーディネートも実施した。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生には事前学習のレポートや、事後学習では、社会人基礎力チェックシートを使った自己評価と他者評価を行い、今後につなげる整理をした。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	15日間
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習2日、事後学習1日、実習12日(2月23日～3月29日)で15日以上になるように設計した。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	彦根を訪れるインバウンド観光客をいかに個店に取り込むかをテーマに、彦根駅前商栄会と連携してプログラムを実施した。受入企業が抱える課題や希望をもとに大学生が企画を考えるもので、具体的には、店外での呼び込みポスターや掲示物、メニューの外国語表示の制作を行った。受入企業とともにPDCAを繰り返すことで、実際に店舗で使用できる水準までに制作した。成果報告会でも受入企業に参加していただき、学生への評価をお願いした。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.econ.shiga-u.ac.jp/community/28/4/gaikoku.html
問い合わせ先	大学等名	滋賀大学
	担当部署名	地域連携教育推進室
	担当者役職名	特任准教授
	担当者氏名	柴田雅美
	電話番号	0749-27-1348
	メールアドレス	fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp